

男女平等推進
from
むさしの

まなこ

何 呼んで いる？

おとうさん

うちのおつ

家内

ママ

ご主人

夫

奥さん

相方

妻

ワイフ

主人

ME

旦那

みんなに聞いてみた『配偶者／パートナーの呼び方』……………P.2

呼び名が表す関係性 ……………P.4

みんなの居場所 日曜地域食堂『ウンチクの多い料理店』……P.6

何て呼んでいいの？

大切な人をどう呼んでいきますか？
何気ない呼び方に、それぞれの関係性が現れます。

みんなに聞いてみた『配偶者／パートナーの呼び方』

配偶者／パートナーの呼び方に迷うことはありませんか？
本人同士どう呼び合うかはお互い納得していればよいものですが、
第三者との会話の中で、自分や相手の配偶者／パートナーを呼ぶとき、
どうしていますか？
『まなこ』では、「配偶者／パートナーの呼び方」について、アンケート調査を行い、
20代～80代の男性42名、女性37名、性別無回答1名にご協力いただきました。
その回答の一部をご紹介します。

違和感のある呼び方はありますか？

- 主人・家内**
・主従関係ではないし、家に常にいる者ではないため。(40代女性)
- おかあさん・おとうさん**
・赤の他人なのに、年上の女性(男性)に対してそのように呼ぶのは、思い込みからくる役割の押しつけに感じる。(30代女性)
- ヨメ**
・不愉快、明らかに大阪芸人の影響。(60代男性)
- ママ・パパ**
・配偶者／パートナーは自分のママ、パパではないから。子ども目線で呼ぶ必要はないと思う。(60代男性)
・第三者の前で呼ぶのは変に感じる。話し手の夫のことなのに、父親のことを話しているような言葉に聞こえる。(40代女性)
- 相方**
・漫才かなと思います。女性が自分の夫を相方と呼ぶのには違和感があります。(40代女性)
・ご主人のことを「相方さん」と呼ぶ友人がいます。珍しいけど、いいなあと思います。(50代女性)
- ワイフ**
・小っ恥ずかしい。(60代男性)
- 夫さん・妻さん**
・まだ浸透してないのと、言いづらいです。(40代女性)
- 旦那さん／旦那様**
・施しを与えるという意味合いがあるので好きではないのと、時代劇や落語の世界を彷彿させる響きがある。(50代女性)



「第三者の前で相手の配偶者／パートナーをどう呼んでいますか？」回答結果より作成

意見・感想など

- ・古くからの知り合い、初対面、仕事上の付き合いなどで呼び方を変えるのは、相手を不快にさせないための工夫だと思うので、自分の考えや呼び方を相手に押し付けてはいけなと思う。(60代女性)
- ・会社の後輩は、「夫のヒト」「妻ちゃん」などと言っていました。いろいろ変わっていくのでしょう。(60代男性)
- ・第三者の前での呼び方は、普段はどうあれ世間一般の常識に倣うものであるべきだと思います。(30代男性)
- ・出会った頃から変化がある。それは夫婦の関係

アンケートをやってみて

第三者の前で「自分の配偶者／パートナーのことをどう呼んでいるか」を聞いたところ、「夫・妻」が半数と最多でした。次いで、「相手の名前に『ちゃん／くん／さん』と多くの方が対等な呼び方をしていました。一方で、「家内・主人」も3番目に多い結果となりました。「つれあい」「相方」など工夫した呼び方をされている方もいました。第三者の前で「相手の配偶者／パートナーをどう呼んでいるか」という問いの回答で最多だったのは「旦那様・奥様」。「奥さん・ご主人」も多く見られました。また、知り合いの場合は、「相手の名前に『ちゃん／くん／さん』と名前で呼ぶことも多いようです。少数ですが「夫さん・妻さん」「パートナーさん」という方も。自分の配偶者／パートナーの呼び方より、意見が分かれました。

おもしろかった・困った・恥ずかしかったエピソード

- ・夫がわたしのことを「よっちゃん」と呼ぶのですが、子どもたちがまだ小さかったときに、普段はママと呼ぶのにスーパードではくれたときに私を探すのに子どもたちから「よっちゃん、どこー！」って叫ばれたときはちょっと照れくさかったです。(40代女性)
- ・相手を立てるつもりで「ご主人」と言ったのにそんな言葉を使うと怒られた。(50代女性)
- ・うちの妻は、付き合っている頃から私の名前は一切呼びませんでした。恥ずかしかったようで、「ねえ」「あの子」といきなり話しかけられる日々でした。子どもが産まれた直後から、妻に
- ・「お父さん」と呼ばれるようになり、最初は慣れずとても恥ずかしかったです。1ヶ月もすれば慣れました。(30代男性)
- ・我が家ではお互い愛称で呼び合っているが、人前では躊躇する。(80代男性)
- ・夫からは「さん」付けなのに、息子からは呼び捨てで呼ばれる。アニメの影響か。(40代女性)
- ・話し相手によって配偶者の呼び方を頻繁に変えたので、子どもが小さい頃は「誰のこと話しているの?」「と混乱していたのが面白かった。(40代女性)
- ・事実婚をした人の相手(パートナー)をどう呼ぶか困ったことがある。(50代女性)

何で呼んでいる？

呼び名が表す関係性

配偶者／パートナーの呼び方は、さまざまです。ことばとジェンダーの関わりを研究する中村桃子さんに、配偶者／パートナーの呼び方についてお話を伺いました。

配偶者／パートナーの呼び名の傾向・ことばの意味合いについて

配偶者／パートナー（以下、パートナー）をなると呼ぶか、悩んでいる人は多いようです。そのため、毎年たくさんのアンケート調査が行われています。「中日新聞」が2023年に行ったアンケートには、次のような意見が寄せられました。

◎「あなたのご主人様」と言われると、私は召使いか？と思う。

◎「ご主人」と言われると、自分が使用人で話の通じない人だと思われているのかなと思ってモヤモヤする。

◎「嫁が」と言われることには違和感。

文化庁が1999年に発表した「国語に関する世論調査」の報告書では、既婚女性の74%がパートナーを「主人」と呼び、既婚男性の51%がパートナーを「家内」と呼んでいました。ところが2023年の日本経済新聞の調査では、女性の51.9%が「夫」と呼び、男性の35.6%が「妻」と呼ぶよう

になり、自分のパートナーを指す呼び名が大きく変化しました。

その理由のひとつは、夫婦の主従関係や家制度を表すような呼び名を避ける人が増えてきたからです。毎日新聞の山本萌さんが抜粋した「日本国語大辞典第2版」の説明を見ますと、パートナーの呼称に選ばれていることばは、結構問題のある意味や由来だということがわかります。（下図参照）

明治の頃には「夫」と呼んでいた

封建的な時代には「主人」が使われ、進歩的な現代では「夫」と呼ぼうと言っているという理解されがちですが、日本語学者の遠藤織枝さんの研究によれば、少なくとも新聞投書などの書き言葉では、明治時代から昭和初期まで最も頻繁に使われていたのは「夫」であり、国語辞典の「主人」の語義に「妻からの呼称」と掲載されるようになったのは、戦後1955（昭和30）年以降だといわれています。

「正しい呼び名」よりも「好きな関係をつくる呼び名」を

呼び名に対する理解は人それぞれなので、どんな世代や地域、場面、所属するグループでも使える中立的な言葉はありません。だから、私たちは、その時々で、呼び名を選んでいきます。それにも関わらず、アンケート調査によると、「正しい話し方のルール」に従いたいと思う人が多いようです。「正しい日本語を話したい」、「間違えたくない」という意識が強いのです。さらに、呼び方に迷っている人の中には、失礼

でない呼び方を日本語学者や古典学者に決めて欲しいと考えている方もいます。毎日、自分が使っているのに日本語は専門家のもので、自分たちのものじゃないと考えているのです。ですから、私がこのテーマをお話すると、よく、「正しいパートナーの呼び名は何ですか」と質問されます。そんな時に伝えているのは、一つの正しいパートナーの呼び名を決めてしまうことほど、つまらない事はないということです。なぜならば、パートナーの形が多様化している今、一つの正しいパートナーの関係を決めてしまうことになるからです。たくさん呼び名があるのは素敵なこと。しかもそこから選べるのも素晴らしいことです。パートナーを表すことばが複数あるということは、社会にさまざまなパートナー関係があるということです。ことばには関係を作る働きがあり、呼び名は関係を作ることばの代表です。パートナーをどのように呼ぶかによって、相手との関係だけでなく、その関係における自分も表現しています。同じ呼び名を選んでいても、「正しい呼び名だから」ではなく、「自分はこの人とこのような関係をつくりたい」と考えて選べたら、その意識は違ってきます。だれもが自分で選んで表現し、それを受け入れられる社会にしたいですね。

- *1 中日新聞(2023)「配偶者の呼び方」中日ボイスに寄せられた読者の意見
- *2 文化庁文化政策課(2000)「国語に関する世論調査報告書」
- *3 前田健輔(2023)「妻と呼んで」6割 実際35%「日本経済新聞」3月27日
- *4 家制度とは、1898(明治31)年に制定された明治憲法下の民法において規定された日本の家族制度であり、家長が家を統率する権利を持ち、家族の生活に強い影響力を持っていた。「個人の尊重」「男女平等」の理念に反するため戦後の民法改正で廃止された。
- *5 山本萌(2023)「愛情込めても」嫁さんの井田「旦那の仕事」NG? 配偶者呼び名について「毎日新聞」5月18日
- *6 遠藤織枝(2007)「男にちなむ言葉」南堂堂

取材 羽柴史美／取材・文 沼田仁仁

武蔵野市刊行物等の表現の手引き

武蔵野市では、市が発行する刊行物等について、男女平等の視点から適切な表現をするための手がかりや目安として「武蔵野市 男女平等の視点に立った市刊行物等の表現の手引き」を作成し、適切なものとなるよう努めています（特定の表現を規制・禁止したり、機械的に置き換えたりすることを示すものではありません）。

男女平等の視点に立った市刊行物等の表現の手引き



確認のポイントより抜粋

- (1) 男女いずれかに偏らない表現とする。
- (2) 性別によりイメージを固定化した表現とならないようにする。
- (3) 男女を対等な関係となるような表現とする。
- (4) 男女で異なった表現の使用の必要性を確認する。
- (5) 人の目を引くだけの視覚的要素（アイキャッチャー）にしている表現とする。
- (6) 多様な性のあり方に配慮した表現とする。

【(4) の例】

<p>「男」「女」を冠した表現になっていないか。</p> <p>●確認したい表現 女医／女弁護士／女性社長／男性保育士</p>	<p>●ポイント 性を冠し強調した表現は、例外的、特殊という印象を与える。その言葉が本当に必要な場面か確認が必要。</p>
<p>性別に関連した特有な表現になっていないか。</p> <p>●確認したい表現 家内／女房／嫁 女だてらに／女性でも簡単にできる ／男性顔負けの活躍 主人／亭主</p>	<p>●ポイント ●女性または男性に特有な表現は、他の表現がないか検討。 ●女性が男性より劣っていることを前提とした表現に注意。</p>
<p>男女の呼称や敬称の区別が必要か。</p> <p>●確認したい表現 女性のみ：〇〇さん／〇〇夫人 男性のみ：〇〇氏／〇〇君 女性又は男性を意味する表現や職業の表現</p>	<p>●ポイント ●平等な呼称や敬称で表現する。 ●性別を特定しない表現を使用。「ビジネスパーソン」「スタッフ」「保護者」「看護師」「保育士」「客室乗務員」等</p>

呼称	意味や由来
主人	家のぬしやあるじを指し、他人を従属・隷属させる者などを表していたが、妻が他人に対して自分の夫を指す時にも使われるようになった
旦那	使用人などが主人を、芸者などが自分の世話をしてくれる男性を敬ってという言葉。他人の主人を敬って呼ぶ言葉にも用いられる
嫁	息子と結婚してその家の一員となった女性。「夜の殿に仕える」若い女性を指すなど諸説ある
奥様・奥さん	大名の正妻など、身分ある人の妻を敬って呼ぶ言葉
女房	女官の部屋や女官の曹司のこと。また、朝廷などに仕える女官のうち、一人住みの「房(部屋)」を与えられている者や、侍女などを指す。次第に愛情の対象としての女性を指すようになり、現代では多少とも卑しめた気持ちで自分の妻のことを言う場合に多く用いられる
家内	明治中期以前は「家庭」の意味で使われていたが、自分の妻を指す意味のみが残る。男性が妻を謙遜して言う場合が多い

「日本国語大辞典第2版」(小学館)から抜粋

なかむら ももこ 中村桃子さん

関東学院大学名誉教授 博士(人文科学)。著書に、『ことばが変われば社会が変わる』『自分らしさ』と日本語(ちくまプリマー新書)、『新敬語「マジヤバイっす」——社会言語学の視点から』『翻訳から広がる日本語——女ことば・男ことば・疑似方言』(白澤社)、『女ことばと日本語』(岩波新書)、『女ことば』はつくられる(ひつじ書房、第27回山川菊栄賞)ほか多数。訳書に、『ことばとセクシュアリティ』(三元社)など。



日曜地域食堂『ウチククのまら料理店』

市内緑町のグリーンパーク商店街にあるMIDOLINO[®]、3年前から毎週日曜日の夕方に開催される日曜地域食堂『ウチククのまら料理店』を訪ね、運営に関わっている方や利用されている方にお話を伺いました。

『ウチククのまら料理店』とは？

「子どもたちに伝えたい食文化の楽しみ・体験」をテーマに「想い」のある作り手の熱のこもった「ウチクク」が楽しめる地域食堂です。子どもたちだけでなく子育て中のお母さんお父さん、近隣の住民、通勤通学帰りの人、近くの高齢者支援施設に通う人などさまざまな方たちが利用されています。ここで食事をしながら過ごすことで、



取材した日は、子どもたちへの読み聞かせも同時開催

子育て世代の人たち同士で繋がったり、運営している方たちと友達になったりと、利用する人たちごとに心地よい居場所になっています。

美味しさの秘訣はみんなの「想い」

シェアキッチンでパン屋を営む人や普段はお勤めして休みの日に手伝ってくれる人、近所にお住まいの高齢者、市内の高校・大学に通う学生さん、それに商店街の店主さんなどさまざまな方たちで支えられています。美味しく、安く、楽しくをモットーに関わっている方たちに話を伺いました。



料理を担当しているメンバー



取材した日のメニュー
「新じゃがチキンコンソメスープ」

3年前からこの食堂を手伝っているむさしのクラフトパンの坂口さんご夫妻は、シェアキッチンを製造拠点に、各地で店頭販売を行っています。多くの常連さんがいます。食堂にも食べに来てくれるのですが、「明日は休むから」と連絡をもらうことも。「普通はお休みのお知らせは、お店からしますよね」と微笑んでいました。



むさしのクラフトパンの坂口さんご夫妻



子どもたちと遊ぶ大島さんと堤さん

食堂のお向かいにある大山食品の大島さん、つつみ文具店の堤さんは、得意なけん玉やベーゴマなどで子どもたちと関わっています。そうした中で顔見知りになった子どもたちに、「今日は元気か」と普段か

運営責任者の舟木公一 さんコメント
この近辺の住宅環境の変化や大型店舗の出店などで、グリーンパーク商店街の活気が失われていくのと同時に、店主と住民や通勤通学の皆さんとの顔の見える交流がどんどん無くなっていくのを感じていました。そうした中で「誰かを応援する気持ちを持ち寄ろう！」をモットーに、この食堂がそんなきっかけになる入り口になればと思って運営しています。



開催：日曜夕方
場所：MIDOLINO[®] 緑町 1-5-20

取材・文 石川英彦

TOPICS

講座の開催情報など、センターからのお知らせをホームページで情報発信しています。アクセスしてみてください。

ホームページ

「まなこ」バックナンバー

男女平等推進センターの休館について

武蔵野市民会館の大規模改修工事に伴い、男女平等推進センターは休館になります。

休館期間
令和8年4月1日（月曜日）から
令和9年3月31日（水曜日）まで

休館中の対応

- 施設・図書の出借は1年間停止します。
- 講座等は、他施設を利用して実施します。
- 相談事業は、日程を変えずに市役所本庁舎で実施します。

BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から

『マイノリティだと思っていたらマジョリティだった件』

松井彰彦／塔島ひろみ編著（ハウレーカ）

インパクトのある表紙とライトノベルのようなタイトルに惹かれて手に取ると、想像をはるかに超える衝撃的な内容だった。性暴力、障害、難病、ジェンダーなど、さまざまな生きづらさを抱える14人が語るライフストーリーに胸が詰まる。

「フツウ」とは何だろう、「フツウでない」との境界線はどこに引かれているのか。自分自身に「フツウ」を装っている一面もあるのではないか。人は置かれた状況によってマイノリティにもマジョリティにもなるが、それを自覚するのは難しい。社会の見え方が変わる一冊。

[文 久富明美]

ヒューマンあい だより

●男女平等推進団体の登録・更新について
男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

講座報告

一日限定 ユースカフェ

日時>令和7年11月22日(土) 13:00~18:00
場所>武蔵野プレイス B2クラフトスタジオ
講師>助産師 鈴木淳子さん(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)
ゆったり、のんびりできる一日限定 ユースカフェを開催。助産師によるミニ講座も実施しました。

もやっとしゃべりば「"好き"って何だろう？」

日時>令和7年12月15日(月)19:00~21:00
場所>武蔵野市立男女平等推進センター会議室
ファシリテーター>丸山真由さん(lag代表)
「好き」をテーマに、ちょっと気になる、誰かと話してみたい、そんな気持ちがある人が気軽に話せるしゃべりばを開催しました。

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談
女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちか楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談
【相談時間】 1回50分/予約制

第1土曜日	①13:00~	②14:00~	③15:00~
第2金曜日	①18:00~	②19:00~	
第3月曜日	①14:00~	②15:00~	(オンライン相談のみ)
第4火曜日	①9:00~	②10:00~	③11:00~

◆女性法律相談
離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談
【相談時間】 1回30分/予約制

申込み方法 電話、オンラインにて予約を受け付けます。
電話予約: 0422-37-3410 (木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)
オンライン: 相談予約 オンラインフォームから予約できます

◆むさしのにじいろ相談(性自認・性的指向に関する相談)
セクシュアリティ全般や性自認・性的指向に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30~20:30
-------	-------------

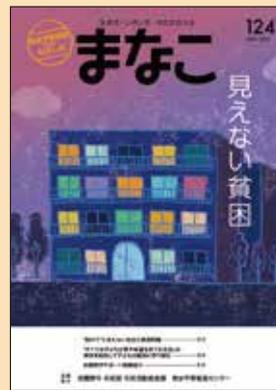
▶電話相談: 0422-38-5187 ※予約不要
▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。 0422-37-3410

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

124号「見えない貧困」を読んで

令和7年度 第2回『まなこ』サポーター会議が11月5日(水)に武蔵野市立男女平等推進センターにて開催され、活発な意見交換がされました。

◎ 大学教授(研究者)と現場で働くNPOの方の視点で分かりやすく説明されていて良かった。当事者の話もあると、より他人ごとではないと感じる内容になったのではないかと思います。



◎ 「絶対的貧困」「相対的貧困」という貧困の定義が分かりやすかった。「見えない貧困」の背景を知り、具体的に想像できた。

◎ 「見えない貧困」を救っていくためには、私たちが知る必要があるのであれば、社会の仕組み、制度を変えていく必要があるのではないかと考えさせられた。

◎ キッズドア理事長の話がとても良かった。見えない貧困が、子どもの将来を奪うこと、この国の未来を奪うことにつながることを知った。

◎ 子どもの貧困の問題を知り、機会の不平等についても考えさせられた。

◎ はたから見ただけでは困っているように見えなかったり、プライドが邪魔をして相談ができなかったり、「コミュニティに参加できない方がいるかもしれない。匿名で相談できる連絡先が掲載されていると良いと思った。

◎ 一市民としてどのように接したらよいか、どんな支援ができるかなどの情報が欲しかった。

「文 久富明美」



「まなこ」サポーターの200字コラム

「何と呼ぶべきか」について

自分らしい表現について 青木佳子

言葉は男女の社会的役割についての考え方に関係していると思います。例えば男性は仕事、女性は家庭といった役割の考え方から主人や奥さんといった呼び方。男性は強くあるべき、女性は優しくあるべきという認識から男らしくまたは女らしくという言葉。

男女平等の考え方が進んできた今であれば、認識も呼び方も変えて良いと思いますし、実際に変えている人も増えていると感じます。言葉も自分らしく表現出来る世の中になると良いと思います。

入籍という言葉について 川島京子

テレビなどで「私たち結婚し入籍しました。」などと報じられることがありますが、ちょっと違和感があります。結婚は平等な両性が婚姻届を出し新しい戸籍を作ること、誰かが誰かの籍に入るのではないのと思うからです。

戦前の結婚には戸主の同意が必要だったのですが、現在は憲法24条で婚姻は両性の合意のみで夫婦は同等の権利を持つと記されています。家長制のなごりのような入籍という言葉は結婚に際しては適切ではないと思っています。

生きやすくなる社会を、言葉から 斎藤桃子

私がかつて子どもだった頃「愚妻」と言っていた夫たちがありました。(妻が「愚夫」と言うのは、聞いたことがありません。)今そんなひどい言葉を言う人は、もういないと思います。「それはおかしい」「嫌だ」と表明する人がいて、世の中が変わってきたのかな。私も、微力だけど非力ではないはずと信じて、日々言葉を選ぶようにしています。改まった席で相手の配偶者のことを呼ぶ名称については本当に難しく困ってしまいます。日本語自体に男尊女卑が埋め込まれているような...

Editors' Notes * 編集後記

配偶者の呼び名に潜む歴史的背景や上下関係に正解を求めるのではなく、自分たちの関係性を表す言葉を、主体的に選び活かしていくことが大切だと感じた。(石川英彦)

パートナーの呼び方の正解は何かを重要視していたが、取材を通して呼び方に限らず日本語に向き合う意識が変化した。自由に表現することを楽しみたい。(沼田仁子)

私の周りでも、夫の呼び方に論議がなされた事もあったが、いざ自分が結婚してみると、こちら側の主張だけでは収まらない場合もある。柔軟な対応も必要です。(羽柴史美)

TPOで呼び分けつつも、私自身も長年悩んできた今回のテーマ。ことばは生きものである、時代や社会の変化と共に変わっていく。パートナーを表す新たな語は生まれる(久富明美)

* STAFF *

取材・編集 石川英彦 沼田仁子 羽柴史美 久富明美
武蔵野市立男女平等推進センター担当職員
編集協力 栗原 毅
表紙デザイン ふじわらりわ
レイアウト 上田ジュンコ
印刷 PICOプリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関など市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センターまで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー
をご覧ください。

武蔵野市 まなこ



◎ 綴じ込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。次号は、令和8年7月発行予定です。